

中小2社 AIで提携

フジコソとアドダイス 検査装置開発に着手 NPO仲介

フジコソ（愛媛県東温市、小松信広社長、089・960・6370）は、人工知能（AI）の開発を手がけるアドダイス（東京都台東区）と組んで、AIを搭載した検査装置の生産に乗り出す。AIが人の代わりに異物を検知し、作業の高精度

フジコソはアドダイスの画像検査専用AI「HORUS（ホルス）AI」を組み込んだ検査装置の開発に着手する。ホルスAIは、熟練作業者の技能を学習できるのが特徴で、検査業務の負荷軽減に加え熟練者が持つ検査のノウハウも継承できる。当面は分野を絞らず、製造業の検査工程に活用できる装置の開発を広く探る。

両社は14日、NPO法人ロボットビジネス支援機構（ロビジー、東京都千代田区）の仲介で業務提携する。フジコソは愛媛県の中核的な中小企業の1社で、工場自動化（FA）装置や産業用ロボットの設計、製造を展開する。省力化装置の

製造に強いが、AIの活用が課題だった。アドダイスは製造現場の省人化や品質向上につながるAIの開発が得意で協業先を探していた。

ロビジーはサービスロボットの利用支援を目的に2017年設立。ロボ関連企業や三井住友海上火災保険、自治体などを中核に、144の企業・団体が参画。ロビジーに

関する課題解決や新事業創出を目指している。